

# 巻頭言

## 「臨時総会と金木犀」

理事長 新谷友良

新型コロナウイルス感染の大きな波が何度も何度も押し寄せ、協会の活動もその波に翻弄され続けた1年半でした。4回目の緊急事態宣言も9月30日で解除されて、台風16号が通過してきれいに晴れ上がった10月3日（日）、延び延びになっていた新しい役員選出のための臨時総会が中野サンプラザで無事開催されました。10月の衣替えのタイミングでの新しい体制の発足になります。

今回の臨時総会には委任状も含めて398名の出席をいただきました。この出席者の数は5月に三田の東京都障害者福祉会館で開催した今年度の通常総会を上回るもので、会員の皆さまの協会への期待をひしひしと感じます。このあとも新型コロナウイルスの感染継続や自然災害の発生などさまざまな困難が起こることが予想されますが、皆さまからのご支援をいただいて、役員一同心を合わせて前に進んでまいりたいと思います。

臨時総会が終わった日の夜、いつものように散歩に出ると、金木犀の強い香りが漂ってきて驚きました。通り道には大小何本かの金木犀が植わっています。今年も、9月の初めには金木犀が強く匂っていました。これで気温が下がり、木の葉が枯れて冬が来るものと思っていましたが、1カ月もたって、同じ散歩道で、同じ匂いが流れてきて、嗅覚がおかしいのかと少し動揺しました。帰宅して、インターネットを検索すると、金木犀の二度咲きはそれほど珍しいものではないようです。そして、予想通り「金木犀の二度咲きは、地球温暖化との関係が指摘されており、温暖化が進めば二度咲きする金木犀が増加すると予測されます」と説明が載っていました。

以前にも巻頭言に書きましたが、嗅覚の記憶が非常に強いことを常々感じています。今日味わった金木犀の香りは、何かの機会に今日の臨時総会を思い起こすきっかけになると思います。そして、その記憶が臨時総会に至るまでの1年以上の間のいろいろな出来事、コロナ感染でマスクを探し回ったこと、人との距離をとれと言われたこと、対面での集まりができなくなってもどかしいオンラインでの集まりを繰り返したことなどまで細かく繋がっていきます。コロナ感染の中での臨時総会開催と金木犀の香りが、私の記憶中で懐かしく結びつくことを確信しています。